

# 医療・介護従事者と協働する高機能ヘルスロード創出に向けた社会実験 ～ 街路整備における新たな取組（都市計画道路 大宮停車場線）～

茨城県土木部道路建設課 係長 川上 達人

令和2年12月18日～19日に、都市計画道路大宮停車場線（常陸大宮市南町地内）において、高齢者やリハビリ患者、子育て世代など多様な人々が安全、快適に、歩きたくなるまちづくりを医療・介護従事者と協働して行う取り組みとして、社会実験を行いました。

## ■実験の背景

常陸大宮市は「常陸大宮駅周辺整備計画」として、駅前広場や自由通路とともに、都市計画道路大宮停車場線の整備を位置付けています。当路線は、全幅16mで都市計画決定されていますが、現状は全幅10m程度で歩道がありません。

この計画では「魅力と活気あふれる快適なまちづくり」の実現を掲げ、駅周辺に集積する医療・福祉施設の利用者の安全、円滑な移動に配慮し、歩行訓練や機能回復訓練にも活用できる道路整備により、健康増進を推進することが謳われています。

## ■実験の目的・概要

このような、将来のまちづくりを見据えた道路整備を行うためには、行政が地域のニーズに合った道路を造ることと、市民がその道路を有効に利活用することが重要です。この2つの点について、道路計画段階から行政、市民の双方が理解を深めるため、社会実験を実施することとしました。

実験は、現道の交通規制により将来の歩行空間を再現し、以下の3つについて行いました。

## ■実験の進め方

	実験内容	検証内容
①	歩道を「一般歩行者レーン」と「高齢者・リハビリ患者等優先レーン」に分けた歩行実験	高齢者、リハビリ患者の歩きやすさ、安全性、必要な幅等の検証。
②	歩行補助車の走行実験	歩行補助車の有効性、安全性、必要な幅等の検証。
③	ベンチの設置、キッチンカーの出店など「歩きたくなるまち」づくりに向けた環境創出実験	滞留スペースの有効性、必要な広さ等の検証。

実験実施にあたっては、県、市、病院、地元代表、警察、バス会社などで構成する協議会を設置し、これらの方々からご意見、ご協力をいただきながら進めました。

特に、常陸大宮市や、独自にまちづくりに取り組んでおられる近隣の志村大宮病院様からは、実験の運営に多

大なるご協力をいただきました。



実験は、新型コロナウイルス感染症対策に細心の注意を払いながらの実施となりましたが、2日間で千人以上の市民にご参加いただき、338人の方からアンケートのご協力をいただきました。

現在、アンケート結果の集計、分析を行っており、結果については、今後、協議会にて報告することとしています。

なお、本実験は国土交通省の公募型社会実験に採用され、経費については国の負担により実施しました。



## ■実験を終えて

今回の実験を通して、このような取り組みに必要なのは、市町村職員の方の熱意と、地元の「まちづくりにおけるプレーヤー」の存在だということを強く感じました。

今回は新たな道路整備に向けた社会実験でしたが、車道の減による歩行空間の確保など、既存道路の再構築のような手法もあります。今後、このような取り組みにより、市民のための道路空間が増えていくことを期待しています。